

深い学びの実現にむけた社会科授業づくり

～歴史学習における学習問題の設定と比較グラフを取り入れた授業づくり～

平井 千恵

学習指導要領では、子どもがこれからの時代を切り拓いていくための資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的な深い学びを柱に授業づくりを求めている。また各教科では教科の見方・考え方を働かせながら、学習に取り組むことが求められている。この教科の見方・考え方を本研究では観点として子どもがもち、国力と国民に焦点をあて歴史的事象について追究する課題設定を行った。単元名からつくる学習問題はゴールを明確にし、グラフは思考の土台として対話的な活動を支える事象に対する理解を深めるものとして有効であった。

キーワード：言語活動、歴史学習、思考ツール、単元構想、見方・考え方

1. 研究の目的

本研究は、小学校第6学年社会科歴史学習における、探究力と省察性の育成を目的とする。

ここでいう探究力とは、社会的な見方・考え方を働かせながら、実社会に存在する課題を問題と捉え、問題解決のために様々な情報を収集し、整理分析し、仲間と共に問題解決方法を創造し、表現・発信する資質・能力、つまり主体的・対話的で深い学びで育成される資質・能力である。省察性とは、自他の問題解決について社会的な見方・考え方を働かせながら、見通したり、振り返ったりし、学習を調整・改善しながら問題解決の質を高める資質・能力である。

これらの資質・能力は、本校社会科部が提案するものであり、社会科がめざす社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養うことを達成することができるものと考えている。

1. 1. 学習指導要領

小学校学習指導要領解説社会編(2017)では、小学校の教科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う」という柱書部分と、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。とある。先述した本校社会科部提案の教科目標及び探究力と省察性は、学習指導要領が示す社会科の教科の目標や三つの柱に沿った資質・能力と同様であると考えている。

1. 2. 先行研究

菅原(2016)は、課題設定の場面において、児童から出された疑問や予想を生かして小単元を貫く学習問

題や学習課題を設定し、問題解決的な学習に取り組ませることは、社会的事象を自分事として捉えることにつながり、主体的に学びに続けるうえで、有効であることと問いの必然性をもたせることが主体的に学び続ける手立てとなると述べている。また、藤沢(2018)は地域と日本の歴史を比較することによって歴史的事象を捉えさせ、これからの社会について考える場面を設定した授業を展開した。授業実践の中では、自分たちの生活と関連付けて考えたことを伝え合い、思考を深めている児童の姿が見られたと述べている。

これらの先行研究より、必然性のある問いをもたせることにより子どもが主体性をもって学習に取り組むこと、地域教材と日本の歴史を比較することにより思考が深まる授業が可能であると考えられる。

本研究では、学習問題と比較する対象をつくることで主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりについて研究を進めることとする。

2. 研究仮説

子どもが問いを作り、2つの視点で比較しながら歴史的事象を整理・分析することで、主体的・対話的で深い学びが実現するであろう。

3. 研究内容・方法

本研究では、本校社会科提案である2つの要素を取り入れた単元構成を行う。「社会的事象を考察する過程」とは、社会的事象についての情報を収集し考察することで意味や特色、傾向などについて考察し、社会的事象についての理解を深めたり、多面的な視点で捉えたりすることを行う過程である。「社会的事象を構想する過程」とは、問題解決に向けて自らの社会的事象へのかかわり方や問題解決の方法を創造したりして、問題解決に向けて社会に参画していく過程である(図1)。

社会科における探究的な学びのイメージ

【社会の問題発見】 【社会を考察する過程】 【社会を構想する過程】

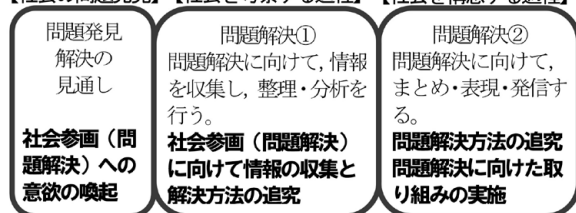


図1 社会科における単元構想

この単元構成に則り「国力の充実をめざす日本と国際社会」という小単元において、理解を深めるために国(政府)と国民の立場に分けて歴史的事象を追及させる。そして単元の終末に学習した知識を活用・発揮し子どもが対話的に事象について判断する場面を設定することで、社会の一員として当時の社会に参画する態度を養う。

また、この単元において取り入れる深い学びを実現させる方法は次の2つである。

3. 1. 単元名から考える単元を貫く学習問題

子どもが主体性をもち学習に取り組むために、単元名のみを板書し、ここから感じたことを自由に表出させることで単元を貫く学習問題を設定する。

3. 2. 比較グラフ

子どもが歴史的事象について知識のみで終わることなく、事象について対話しながら自分の考えを形成し事象について判断することで、事象に対する理解が深まるように、国(政府)と国民側の両方から事象を捉える活動を設定する。比較するために、国力の充実グラフと国民の幸福度グラフを作成することとおして理解を深め自分の考えの形成を促す。学習指導要領解説社会科編には「社会的事象の見方・考え方」は、「位地や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して(視点)社会的事象を捉え、比較・分類したり統合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)と考えられ」とある。本研究では、「事象や人々の相互関係などに着目して(視点)」とあることから、グラフの観点を事象や人々の相互関係から考えられるものとして活用する。

4. 授業の実際と考察

4. 1. 授業の実際

【対象】本校6年C組30名

【単元名】「国力の充実をめざす日本と国際社会」

【単元の目標】

大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手がかりに、わが国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解し国民の様子から国の在り方について考えをもつ。

【単元設定の理由】

本単元では、明治政府に代わり富国強兵を推し進め

る日本が、憲法の発布や日清・日露戦争での勝利、条約改正や化学や工業の発達によって国力を充実させ、国際的な地位を向上させたことを理解する単元である。その国力を充実させた背景には、政府の施策や人々の苦労がある。出来事を年表で追うことで事実は見える。しかし、その裏に隠れている政府がなぜ戦争に踏み出したのかという理由や、政府の施策の下で当時の人々がどのような願いをもって生活していたのについて政府の施策や当時の状況と関連付けることで、この時代をより深く理解するとともに、その後の日本が太平洋戦争へと突き進んでいく状況を身近に捉えることができる単元であると考えられる。

【単元計画】全11時間

【社会の問題発見】

1 単元名をもとに課題を設定する

【考察の過程】

- 2 憲法や自由民権運動から課題について検討する
- 3 国会開設から課題について検討する
- 4 不平等条約改正から課題について検討する
- 5 これまでの学習を振り返る
- 6 2つの戦争から課題について検討する
- 7 韓国併合から課題について検討する
- 8 工業から課題について果とする
- 9 人々の生活から課題について検討する
- 10 課題に対する自分の考えをまとめる

【構想の過程】

- 11 よりよい国の在り方について考えをまとめる

4. 1. 1. 単元名から考える単元を貫く学習問題【第1時】

単元を貫く学習問題を子どもにもたせる活動を行った。単元名のみを板書し、そこから思ったことや考えたことを自由に表出させた。

単元名のみを板書であったため、子どもたちは何を書けばよいのか迷っている様子であったが、グループで話し合わせることで、自由な意見交換が行われ多様な意見が出され、まとめる中で、「国力は充実したのか」「誰のための充実なのか」という2つの単元を貫く学習問題が設定された(図2)。

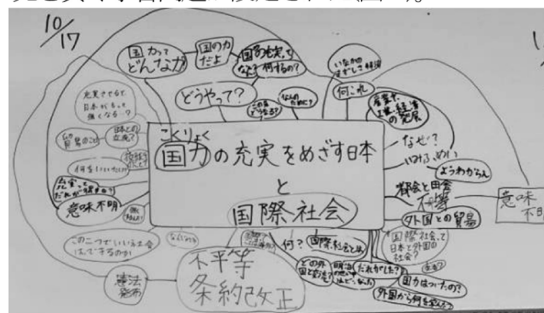


図2 単元名から思ったことを出させた板書

4. 1. 2. 比較グラフ

第1時において、単元を貫く学習問題を設定した。その中で「国力とは何か」という定義に関する疑問がでた。そのことについて話し合う中で、国力とは国の

力だという意見と国民のことを示しているという2つの意見が出た。比較グラフを作成するための良い疑問であった。その後辞典で調べ、国力を「産業・経済力・文化・軍事力・人口」の5観点としてこの5つが充実していくのかを単元を通してみていくことを確認した。また、国民という意見が出ていたことから国民も5つの観点で幸福度を表していくことを確認し、子どもから幸福の5つの観点を出させ「食料・人権・自由・お金・便利さ」とした。この2つのグラフを学習時に考えながら国力の充実と国民の幸福度とどのような関係になるのかを考えながら授業をすすめた(図3)。

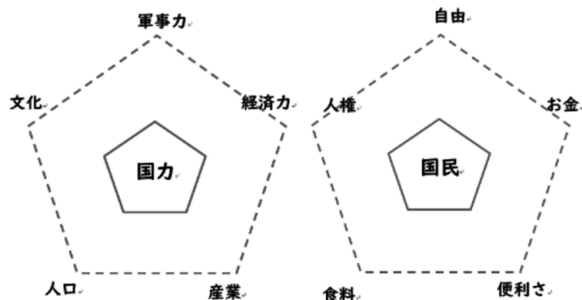


図1 国力の充実グラフと国民の幸福度グラフ

【第3時】

「国会開設と憲法発布」についてグラフを作成する中で子どもたちの中で意見が二分した。

国力の充実の「文化」を上げようと考えた子どもは、「政治の仕組みが新しくなり、人々の願いを叶えるための国会開設だから、文化の面では上がったと思う。」と考えている。一方、「国民は天皇の手下ってことがこの憲法で正式に決まったから、これは文化が上がるとは言えない。」という考えがあり、一つの観点をもって話し合う姿が見られた。

また、国民の幸福度グラフについても同様に、「人権」と「自由」について、「憲法で正式に権利や自由が認められた」と考える子どもと「国会は男だけであり、女性の身分は低いまま。選挙も一定の金額を納めないと参加できない」と同じ憲法発布という事象についても考え方の違いから話し合う姿が見られた。この時点では2つのグラフを比較し、「両方良くなっているように見える」とグラフの観点を通して国と国民の生活についての考えをもっている子どもが多かった。

(振り返り)

- ・国力の充実も国民の幸福度もどんどんよくなっている。
- ・一見、両方よくなっているように見えるけど、国の役人や天皇だけが得をしているような気がする。
- ・憲法や国会ができて、国民は本当によかったのかな。

【第9時】

造船業など重工業の発達や生糸の生産量が世界一になるという事象から「産業」「経済力」「軍事力」などに焦点が当たり、子どもは政府の立場になり「欧米に追いついてきたぞ」や「思い通りだ」などの意見が出

された(図4)。一方国民の立場になると「働けるのはいいけどきつい」や「公害で作物が育たない。困った」など政府の施策について2つの立場で考える姿が見られた(図5)。

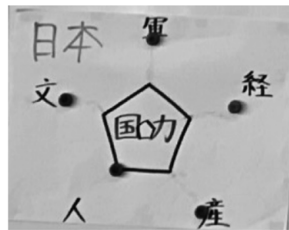


図4 国力の充実度グラフ

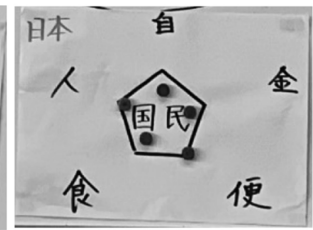


図5 国民の幸福度グラフ

(振り返り)

- ・国力の充実と言いながら世界の中で強くなることを考えている感じ。国民のために何かしてほしい。
- ・日本はすごいよ！強いんだよ！ということを見せつけるためにみんなが骨をおって働いていた。国力の充実日本人が得すると思っていたけど、女性はまだ得しないので国の政府、貿易のためだと思った。政府はあまり国民のことを気遣わないで行動している。
- ・政府は武器が増えて戦いやすくなった。外国の政府から日本は強く韓国はかわいそうと思われていると思う。
- ・日本は自己中？工女だけに働かせ解いて自分はなんにもせずに世界一になって喜んでいるから。
- ・日本は産業、経済を上げるために女性を働かせたりしたんだと思います。でも、工場を建てたところで公害が発生したので、むりしない程度に働かせてあげてほしいと思いました。津田梅子さんは国民(女)の中心)にとって「神」だったと思います。
- ・すべてつながって、国力は強くなったけど、国民はもうめっちゃくちゃになってる。戦争に勝つために国力の充実をめざしていると思う。

【第10時】

グループで事象とこれまでのグラフの推移を確認しながら単元を貫く課題についてまとめた。どのグループも国力の充実グラフは大きく、国民の幸福度グラフは小さいものになった。

また、単元のまとめは「日本の国力は充実し、外国から見た地位が上がった。国民は生活が大変だったが、変えようとする運動をしていた」となった(図6)。

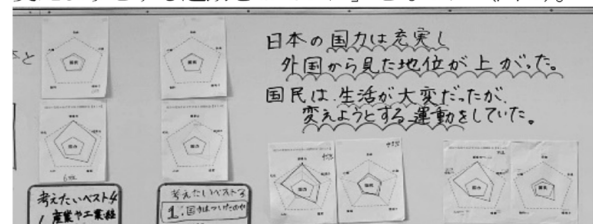


図6 単元のまとめ

(振り返り)

- ・日本はこれでよかったと思います。なぜなら日本は

国力の充実をめざしていたからです。結局日本は充実したからよいと思いました。

- ・この政策で良い思いをしたのはほとんど日本で、国民はあんまりよい思いをしなかった。
- ・外国から見て地位が上がったのはすごいと思った。
- ・日本の政府は良かったが、国民はよくなった。国民は良くなかったが、それでも自分たちで運動していることがすごい。
- ・日本の政策は国力を高めるために良い働きをしたと思う。でも、国民に対して厳しいものだったので、国力と国民の両方の充実はできなかったと考えた。

【第11時】

これまで獲得した知識と活用・発揮し、よりよい国の在り方について考えるため、当時の日本に暮らしていたら、生活をよりよくするためにどんなことをするか。という課題でそれぞれの解決策を表出させた。

〈解決策〉

- ・警察に捕まるけれどデモ(反対運動)をする。女性の選挙権がなく、かわいそうだから。
- ・男女差別をなくすために平塚らいてうのように政府にうったえる。
- ・政府の役人になるために選挙に出て、国民の給料を上げる。これにより女性の収入も増え、人権差別も少しは解消される。
- ・料理屋をしてお金を貯める。そしてうまくいけば全国チェーンにして女性の働く場を増やす。

このように、「人権」や「自由」「お金」について焦点を当てた子どもが多く、解決するために、国民の立場で運動を起こす、政府の役人になり国を変える、個人店を出し、商売で暮らしをゆたかにしていく。など様々な立場での解決策がでた。

〈振り返り〉

- ・私たちが考えた解決策、実際に同じことを感じ、行ったのかな。行ったとしても実を結ぶのは20年くらい先だと思うけど、みんなやっぱり人権を良くしたいと考えていた。いろいろな解決策がきけて今日は行ってよかったって思えました。
- ・今日の社会では、自分の考えをボードにしっかりかけた。お金を増やすために店をたてるといいと思ったけど、お金がそもそもないかもしれないからやっぱり難しそう。自分も選挙に出て政治を中身から変えるという意見に納得した。

4. 2. 授業の考察

単元を貫く学習問題を設定したことによって、単元の終末まで子どもは「国力は充実したのか」という視点で学習を進めていることが振り返りから分かる。

比較グラフを活用することにより、同じ観点での話し合いができ、それぞれの見方が違うことにより、考えの違いが出るため、一つの事象についての理解が多

面的になると考えられる。また、単元をとおしてグラフを活用していることで、グラフから違いを見つけ、事象の内容を捉えながら自分なりの考えをもつことができている。また、単元の概念的知識についても「国力の充実をめざす日本と国際社会」という単元名から国側と国民側からまとめることができ、当時の人々に寄り添えたことで理解に深まりが出ていると言える。

単元の終末には、「構想の過程」として知識の活用・発揮場面を設定した。グラフをもとに、国をよりよくするためにグラフ数値が低かった「人権」などに注目し、差別解消などについて当時の様子を踏まえながら解決策を考えることができています。これらは、グラフの観点によって学習した知識が再構成され、生活をよくするための解決策の創造に至ったと言え、知識を活用・発揮したと言えるだろう。

5. 成果と課題

本研究では2つの方法で主体的・対話的で深い学びが実現させようとした。単元名から単元を貫く学習問題を作ったことは、単元の終末までのゴールが明確になり、目標を見失わず学習に取り組めたことから主体的に取り組むことについて一定の成果があったと考えられる。また、観点を焦点化してグラフを作成したことは、一つの事象に対して同じ観点から考え話し合うことができたことから、対話が成立し、事象に対する理解が深まったと考えられる。授業後の振り返りでは、対話したことをきっかけに個人の考えを振り返り、新たな視点での考えが生まれたことも成果と言えるだろう。また、次単元にもこの単元で活用した観点を活かした発言が多かったことから、社会科の用語の獲得にもなったと考えられる。

しかしながら、筆者自身がグラフを活用して学習を深めるという軸がぶれ、グラフを作成させることが目的化してしまったことで、子どもが混乱したことがあった。比較グラフの活用はあくまで対話的な土俵を作り、学習を深めるためのツールである。目的は社会科の目標を達成させることであり、方法はその目標に向かうための学び方の一つである。これを忘れず、今後研究を進めていきたい。

引用文献

- ・文部科学省(2017)「学習指導要領解説社会編」,東洋館出版社
- ・菅原崇志(2016)「社会的事象を自分事として捉え、主体的に学び続ける社会科指導の一試み」,仙台市教育センター長期研修員研究報告
- ・藤澤美咲(2018)「社会的事象を「自分ごと」として捉え、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した社会科授業づくり」,神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告